武士（もののふ）の“ダンディズム”
町人の“いなせ”

▲ 鶸色糸威大鎧
江戸時代・19 世紀

平成 24 年 5 月 8 日(火)
～6 月16日(土)

9 時 30 分～ 17 時 30 分
休館日：日曜日・祝祭日
※入場無料

黒木綿地加藤清正図刺子袷纏 ▶
江戸時代・19 世紀

◀ 茶地文字入角繋模様革羽織
江戸時代・19 世紀

共立女子大学
神田一ツ橋キャンパス
本館1階展示室

東京都千代田区一ツ橋2−2−1
TEL： 03−3237−2435

【アクセス】
・東京メトロ半蔵門線・都営地下鉄三田線・都営地下鉄新宿線「神保町」駅下車 A8 出口から徒歩1分
・東京メトロ東西線「竹橋」駅下車 1b出口から徒歩3分

武士（もののふ）の“ダンディズム”町人の“いなせ”

戦乱の室町時代後期から江戸時代初期にかけて、武士は「もののふ」としての生きざまを存分に発揮しました。生きることと死ぬことが表裏をなしていたこの時代、彼らが身につけた様々なアイテムには、美しくあることが、生きるときにも死ぬときにも非常に重要な要素となっていたことを窺うことができます。

江戸時代になって平和な時代を迎えると、武士は「もののふ」としての威厳を保ちつつ、世の中を束ねるための洗練されたセンスをも求められるようになりました。そこでは身につけるものにも、こうした要素が要求され、独自の武家ファッションを生み出すことになります。

300年の平和を保ったこの江戸時代には、また一方で町人文化が花開き、さまざまな流行や様式を生み出しました。町人女性のファッションはその最たるものですが、男性の衣服にもそれらとは一味異なるおしゃれな世界が展開していました。

今回の展示では、近世の男性服飾の両極をなす、武士の“ダンディズム”と町人の“いなせ”に焦点を当てた作品をご覧いただきます。

濃茶麻地熨斗模様素襖上下　江戸時代・19 世紀

紺木綿地雪持笹紋付六尺看板　江戸時代・19 世紀

紺地中格子模様熨斗目　江戸時代・19 世紀

白木綿地縦縞菱模様胴着　江戸～明治時代・19 世紀